

■ 出会い・ふれあい・学び合い ～みんなで育てる山田の子～（山田小学校）

1 【活動の趣旨】

本校では、地元特産野菜や近くの漁港などの地域の良さ、地域の人とのつながりを活かして、山田の子どもたちを育てる活動に取り組んでいる。また、子どもと大人が学び合い・かかわり合い・喜び合い・認め合うことを積み重ねながら、学校と地域が連携し『地域協働合校事業』を進めている。

2 【特徴的な活動内容】

○山田ねずみ大根を育てよう 【2年生】

2年生では、地域の方の指導のもと、草津市北山田町の名前を冠する伝統野菜「山田ねずみ大根」の栽培に取り組んだ。畑の土壌改良を行い、そこに子ども達が種を植え、水やりや除草などに取り組んだ。頑張って世話した甲斐もあり、たくさんの立派な山田ねずみ大根を収穫することができた。また、「山田ねずみ大根品評会」で教育長賞も受賞でき、子ども達の大きな自信につながった。



【山田ねずみ大根の収穫】

○できることから はじめよう ～食品ロス～ 【5年生】

5年生では、米づくりをきっかけに「食」に関わることを考えていく中で、食品ロスの問題に目を向けた。立命館大学の学生に来ていただき、食品ロスの現状について教えてもらい、食品ロスをなくすために自分たちに何ができるかを考えた。クラスで給食の残渣を減らすための呼びかけを行ったり、スーパーや飲食店に、食品ロス削減を呼びかけるポスターやポップを掲示してもらったりした。また、保護者向けに、残り物のアレンジレシピを提案したり、買い物リストの活用を呼び掛けたりもした。



【食品ロスをなくすために】

3 【実施に当たっての工夫】

- ・地域コーディネーターが中心となって地域との調整を進めることで、地域との連携がスムーズに進み、より有意義な活動となっている。また、活動内容を学校のホームページや山田学区まちづくり協議会のLINEで配信することで、より多くの方に知ってもらえるようにしている。

4 【事業の成果】

- ・校内の掲示板に『地域協働合校コーナー』を設け各学年の取組について紹介することで、多くの子ども達が掲示板を見て自分たちの活動を振り返ったり、「〇年になったらこんなことができる！」「この場所に行ってみたい。」と、次の活動を楽しみにしたりする姿が見られている。また、歩いていける範囲に漁港やビニールハウス、農業センター、田畑などがあり、地域の方々の協力のもと、ともにふれあいながら体験を進めることができた。

5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

自分たちが取組の中で感じたことや学んだことを地域に対して発信・提案できる場づくりを今後も進めていきたい。